

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東岩槻小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<p>国語 ・該当学年までに身に付けるべき漢字や言語に関する知識が定着不足であること →個人での読書、本の読み分け、調べ学習等、委員会活動や学校図書館と関連させ、児童が活字を読む機会を増やす ・主語と述語、文と文の関係を適切に捉えることが苦手であること →授業内で文と文の関係を確かめる機会を増やし、理解しながら読めるよう支援する。また、意図的に状況や設定を確認したり問い返したりし、誤読や間違った認識を正していく。</p> <p>算数 ・数の概念や基礎的な計算方法についての理解、技能が定着不足であること →折り紙などの実物を使ったり、毎回の授業初めで確認したりするなど、実物に触れたり繰り返し確認する機会を増やす。また、「5をつくる」「10をつくる」を低学年で、「2組にする」「半分にする」を中学年以降に意図的に授業の中で扱えるようにする。</p>
思考・判断・表現	<p>国語 ・考える力や感じたり想像したりする力が定着不足であること →日常的に説明文(短文でも可)読み、内容を相手に伝えたり、自分の思いや考えを持ちたりできるようにする。</p> <p>算数 ・具体物、図、目的に合った表現方法を用いて算数的事象を考察することが苦手であること →文字を図で書き換える、図から題意を理解する、図や表から立式する、式に合った問題作りをする、などの活動を授業の中に取り入れる。</p>

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、並びに既習事項の定着</p> <p><指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間の確保</p>	<p>⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【毎日実施】 ・学習の振り返りを書く際、主語と述語を明らかにして書くことを指導することで、主語と述語の関係を正しく理解させるとともに、本時の学びを次の学習に生かせるようにする。【毎日実施】 ☆市学習状況調査の経年変化、及び校内実施のまとめテスト(1学期→3学期)の変容から授業改善策の達成状況を判断する。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 習得した知識及び技能を活用した課題解決力の向上</p> <p><指導上の課題> 子ども主体の学びとなるような授業が少ない</p>	<p>⇒ ・授業の中で、自分で考える時間、友達の見聞を聞く時間、自分たちでまとめを考える時間を確保する。【毎日実施】 ・児童自身が学習のつなげに気付いたり、意識して学習を進められたりできるように算数コーナーの充実と授業展開の工夫を行う。【毎日実施】 ☆市学習状況調査の経年変化、及び校内実施のまとめテスト(1学期→3学期)の変容から授業改善策の達成状況を判断する。</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<p>・R5年度市学習状況調査とR6年度市学習状況調査の同集団経年比較ができる4～6年生において偏差値で比較。国語の「知識・技能」では、2学年(4・6年生)が向上、1学年(5年生)が低下。算数の「知識・技能」では、2学年(4・5年生)が向上、1学年(6年生)が低下。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「知識・技能」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率が1.9pt向上した。※一部の学年はまとめテストを使用しなかったため、3学期に行ったワークテストの平均と1学期に行ったワークテストの平均とを比較した。</p>
思考・判断・表現	B	<p>・R5年度市学習状況調査とR6年度市学習状況調査の同集団経年比較ができる4～6年生において偏差値で比較。国語の「思考・判断・表現」では、2学年(5・6年生)が向上、1学年(4年生)が低下。算数の「思考・判断・表現」では、2学年(5・6年生)が向上、1学年(4年生)が低下。 ・3学期単元まとめテスト(算数)「思考力・判断力・表現力」で、1学期単元まとめテスト(算数)より自校の平均正答率が0.3pt低下した。※一部の学年はまとめテストを使用しなかったため、3学期に行ったワークテストの平均と1学期に行ったワークテストの平均とを比較した。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語:漢字を適切に使うことを苦手としている児童が多かった。</p> <p>算数:除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題、単純な計算式ではなく、複数の知識を結び付けて立式する必要がある問題を苦手としている児童が多かった。また、体積と面積の求め方(公式)を忘れてしまったために、立式、回答ができない児童が多かった。</p>
思考・判断・表現	<p>国語:集めた材料を分類したり関係づけたりする問題を苦手にしてた。自分の考えを決まった文量でまとめることに苦手意識を感じている子どもが多かった。条件に合わせて書く活動がそもそも経験が不足していると考えられる。</p> <p>算数:理由を言葉や数を用いて記述したり、図を基に各段階の商の意味を考えたり、複数のグラフから見出した違いを言葉と数を用いて記述したりする問題について苦手としている児童が多かった。</p>

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語 ・該当学年までに身に付けるべき漢字や言語に関する知識を問う問題を苦手としている。 ・主語と述語、文と文の関係を適切に捉えることを問う問題を苦手としている。 算数 ・数の概念や基礎的な計算方法についての理解、技能を問う問題を苦手としている。</p>
思考・判断・表現	<p>国語 ・考える力や感じたり想像したりする力を使って問題を解くことを苦手としている。 算数 ・具体物、図、目的に合った表現方法を用いて算数的事象を考察することを苦手としている。</p>

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>・「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に継続して取り組んだが、毎日使用することはできなかった。 ・学習の振り返りを毎日記入することで、本時の学びを次の学習に生かせるようにすることができた。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>・高学年に近づくと、「自分で考える時間、友達の見聞を聞く時間、自分たちでまとめを考える時間を確保する。」ことを意識した授業を行うことができた。 ・単元計画をしっかりと立てることで、日々の授業展開を工夫することができた。今後は、児童自身が学習のつなげに気付いたり、意識したりできるように算数コーナーをよりよいものにしていく。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)